

あいであ & アイデア

ウインチ付き削蹄枠を自作——より早く安全に

岩手北部農業共済組合 琵琶坂 忠雄

県内には、日常作業の効率化や費用節減を図ろうと、創意工夫する畜産経営者が多数います。その中で、削蹄枠作業をより早く、かつ安全に行えるよう工夫を施している桜庭真悟さんを紹介します。

自力施工のすすめ

桜庭さんは、九戸村で酪農を営んでおり、器具の自力施工で、コストを抑えるとともに、作業効率を高める“使いやすさ”を追求し、さまざまな工夫を実践してきた経営者です。

農機具の加工を自分で行えるようにと、溶接の技能講習を受講し、技術を習得。これまでに乾草運搬のためのロールグリッパーを始め、数多くの機器具を自作・加工してきました。

中でも自信作は、牛の蹄病治療や削蹄時に保定に使用する「削蹄枠」です。

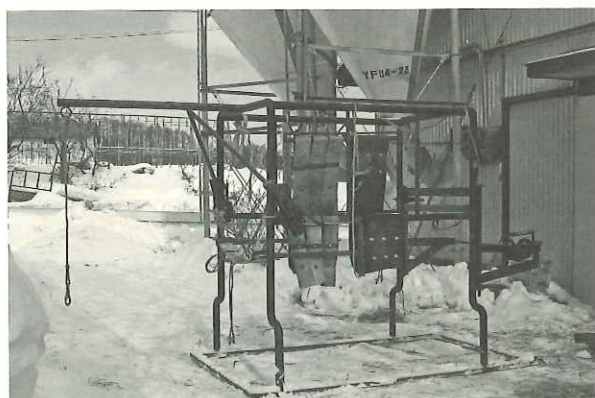


(写真1) 桜庭真悟さん。削蹄枠のほかにもロールグリッパーなど各種機器具を自力製作している

ウインチ付き削蹄枠の特徴

(1) 牛を短時間かつ安全に固定

桜庭さんの製作した削蹄枠の特徴は、前後にウインチ（巻き揚げ機）が取り付けられている



(写真2) 桜庭さんが製作した削蹄枠（牛が入る前）



(写真3) 桜庭さんが製作した削蹄枠（牛を固定した状態）

ることです。このウインチが作用し、ロープで素早く肢を固定することができます。肢とウインチのシャフトをロープでつないでから固定に要する時間はたったの10秒ほどのこと。

このウインチ付き削蹄枠は、「牛にストレスがかからず、暴れることも少ない」という効果があるほか、「何よりも牛がケガをしないように、安全であることに気を使いました」と桜庭さんはいいます。

(2) 製作費用

削蹄枠の原型が出来たのは14年前です。当初は、外枠と面綱をつなぐ部分のみのシンプルなものでしたが、その後、作業の効率化を図るために改良を重ねてきました。通常、削蹄枠を購入すると数十万円を要しますが、廃材利用により製作費用を5～6万円に抑えることができました。



(写真4) ウインチを使用することで、素早くかつ安全に肢を固定することができる（上、下）

まとめにかえて



(写真5) 削蹄枠を利用し、蹄病のケアをする桜庭さん

桜庭さんは、「削蹄枠をはじめ、ほかの機器具もまだまだ改良したい部分があります。溶接の腕を生かして、これからも研究を続けていきたいです」と意欲的です。

大掛かりで高価な機械を使用することの多い酪農経営ですが、桜庭さんのようなちょっとした工夫で自作・施工し、コスト削減や作業効率の改善を図ってみたいかがでしょうか。

(筆者：岩手北部農業共済組合総務・企画課)

あいであ & アイデア